第 1 号議案

第 12 期 活動報告

1. 障害者福祉総合支援法に基づく福祉サービス事業

別紙 1.　居宅介護、同行援護、行動援護、重度訪問介護サービス

2. 障害者福祉総合支援法に基づく相談支援事業

活動なし

3. 障がいをもつ子どもの放課後等デイサービス事業

別紙 2.　おれんじ柳町、おれんじ初倉、おれんじ坂口、おれんじ中溝

4. 障がいを持つ人の生活介護と就労継続支援 B 型事業

別紙 3.　生活介護「かりん」 B 型事業「りんご」

5. 障がいをもつ人への移動サービス

別紙 4.　移動支援事業、有償運送

6. ノーマライゼーションの理念を実現する事業

障がいをもつ人の社会参加支援事業

別紙 5.

7. その他 この法人の目的を達成するために必要な事業

別紙 6.　うぇるびー研修、外部研修

別紙１

仮認定特定非営利活動法人フリースペース・うぇるびー第 12 期

事業報告書 2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

事業名

福祉サービス事業（居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護）

目的

〈居宅〉

利用者が居宅において自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに外出時における移動の援護、その他の生活全般にわたる自立の為の援護を行います。

〈重度訪問介護〉

重度の肢体不自由者で常時介護を必要とする方に対して、居宅において入浴・排せつ・食事等の介護サービスや調理・洗濯・掃除等の家事援助。その他の生活全般にわたる見守り等の支援を行います。

〈行動援護〉

知的障がいまたは精神障がいにより、行動上著しい困難を有する知的障がい者・障がい児・精神障がい者に対して、自立の援護を行います。

〈同行援護〉

視覚障がいにより移動に著しい困難を有する障がい者等に対して、外出時においてガイドヘルパーが同行し、情報の提供や通院等の援護を行います。

実施概要

〈活動実績〉

居宅等サービス事業（居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護）

年間稼働日数　　365 日

延べ利用者数　　1,222 人

成果

〈居宅〉〈重度訪問介護〉

利用者の「安全に在宅生活を送りたい。」「家族による介護負担を軽くしたい」等の気持ちに添うようなケアができました。

〈行動援護〉

利用している方は少人数だが、経験豊富なヘルパーが担当しています。県の指導でヘルパーの経験や研修が重要になってきています。今後は、人材の確保がこの事業を左右すると認識しています。

〈同行援護〉
　利用者の健康増進や、知的向上をめざして利用している方が多いようです。島田ローズアリーナのジムやプールを利用したり、パソコン習得のために静岡に通ったりする方もいます。利用者の求める支援を行いました。

今後の課題
〈居宅〉〈行動援護〉〈同行援護〉 いずれも人材確保と育成が必要です。 〈重度訪問介護〉 今後、サービスの提供時間が、ほぼ 24 時間に拡大していくことも予想されるため、人材確保と育成につとめていかなければなりません。

支出額
18,383,517 円

別紙２－１

仮認定特定非営利活動法人フリースペース・うぇるびー第１２期

事業報告書 2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

事業名

放課後等デイサービス「おれんじ柳町」

目的

児童福祉法等関係法令の理念に則り事業を行う。
① 障がい児の生活能力の向上のために必要な訓練を行う。
②社会との交流を図ることができるよう、身体及び精神の状況やその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行う。
③上記①②のために個別支援計画に基づき必要なサービスを適切に行う。

実施概要

① 年間稼働日数 240 日
② 延べ利用人数 2,311 人／1 日当の定員 10 人
③ 指導・支援の流れ

1.「おれんじ」に着いたら、まずうがい手洗いをする。
2. 課題ルームで個々の課題、または宿題に取り組む。
3. それが済んだら、フリールームで好きな事、得意なことをして過ごす（図書館や公園などに出かける場合もある）。
4. 帰りの会の当番、配膳の手伝い、食器洗いの手伝い、帰りのあいさつ等それぞれの役割をやり遂げる。

上記の生活能力の向上のためには、外から「おれんじ」に入るとき及び食事の前の手洗い、あいさつなど基本的な生活動作やコミュニケーションを繰り返し練習すること、構造化や情報を視覚化することで子どもの理解を助ける方法を工夫している。

④ その他の活動

1. 長期休暇中、以下の活動を行った。
   ・工場見学（ＴＯＫＡＩアクア、たこまん、伊藤園相良工場、富良食品）、
   ・昼食作り（タコライス、カレーライス、餃子、お好み焼き、スープ、サラダ、ナムル等）
   ・おやつ作り（カップケーキ、スノーボールクッキー、ホットケーキ等）
   ・工作等（プラ板工作、写真立て、スノードーム、栞、ペーパーウェイト、入浴剤作り、紙粘土、絵具遊び）
   ・買い物体験（昼食作りやおやつ作りの材料）
   ・お出かけ（ジャンボ干支、郷土博物館、昆虫館、空港資料館、空港、プラネタリウム）
   ・静岡県障害者スポーツ協会による巡回指導（ボッチャ、フライングディスク）
   ・ボランティアの方による活動（読み聞かせ、手品等）
2. 交流会（ハロウィーン） 2015 年 10 月 31 日

   おれんじ柳町室内、駐車場
   ・紐くじ、クロスワード、プラ板工作、お菓子のつかみ取り
   ・おしるこ、フライドポテト無料配布
3. セラピー犬訪問 毎月１回

別紙

成果
1. 「おれんじ」での過ごし方が身についてきた。課題への取り組みは、新しく利用が始まった子どもたちについても定着してきている。 2. 「課題が終わったら好きなことができる」という意識付けができてきた。 3. 帰宅時間の 10 分前に帰りの会という流れができ、発表を順番にすることができる。 4. 他の子どもと関わるのが苦手な子どもも、限られた空間の中でやりたいこと、居たい場所を見つけ過ごすことが出来ている。 5. 工場見学や公共施設等に出た際、疑問に思ったことやわからない事を、係の方に質問するなど積極的に学ぶ姿も見られ、子供たちにとって楽しみな長期休み中の行事となっている。 6. 昼食作りやおやつ作りでは、それぞれが自分の役割を果たせるようになってきている。 7. 工作では、初めての事にも興味を持ち、集中して取り組める子が増えてきた。また、できることは子どもに任せ、できない部分をスタッフと取り組むことで、完成させる喜びも味わうことができているようだ。 8. 買物体験では、昼食作りやおやつ作りの材料を事前に決めておき、お店の中では決めた量になるよう考えたり、どこに目的の品物があるか探したりと買い物を楽しむことができている。 9. お出かけでは、挨拶や公共の場でのマナーを中心に、身近なことを学んだり、お友達と協力し合ったり、集団行動や時間配分等を学ぶ機会としている。また、高学年の子は低学年の子の手を引いて行動するなど、上級生としての自覚が見られる。
今後の課題
① 興味の移り変わりが激しく、ある程度の時間じっくりと取り組むことができる遊び・趣味が見つかっている子がまだ少ない。 ② どんなことに興味があるのか、どんな遊びに「はまる」のか、更に試行錯誤していきたい。 ③ 他の子どもとのトラブルが少なく、かつそれぞれの子が快適に過ごせる方法を探し続けたい。 ④ 月例の職員会議等を通じ、子どもへの支援方法などの共通理解を図っていきたい。
支出額
16,827,513 円

別紙２－２

仮認定特定非営利活動法人フリースペース・うぇるびー第 12 期

事業報告書 2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

事業名

放課後等デイサービス「おれんじ初倉」

目的

児童福祉法等関係法令の理念に則り事業を行う。
①障がい児の生活能力の向上のために必要な訓練を行う。
②社会との交流を図ることができるよう、身体及び精神の状況やその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行う。
③上記①②のために個別支援計画に基づき必要なサービスを適切に行う。

実施概要

①　年間稼働日数　240　日
②　延べ利用人数　2,532　人／1 日当の定員 10 人
③　指導・支援の流れ

1.「おれんじ」に着いたら、まずうがい手洗いをする。
2. 課題ルームで個々の課題に取り組む。
3. それが済んだらフリールームで、好きな事、得意なことをして過ごす。
4. 帰りの会の当番、配膳の手伝い、食器洗いの手伝い、帰りのあいさつ等それぞれの役割をやり遂げる。

上記の生活能力の向上のためには外から「おれんじ」に入るとき及び食事の前の手洗い、あいさつなど基本的な生活動作やコミュニケーションを繰り返し練習すること、構造化や情報を視覚化することで子どもの理解を助ける方法を工夫している。

④　その他の活動

1.	ドッグセラピー	毎月１回（第４火曜日）	おれんじ初倉
2.	施設見学	長期休暇時	バスクリン、たこまん、明治製菓、 富士山静岡空港、焼津市消防防災センター
3.	交流活動	長期休暇時	吉田児童館、吉田図書館、向谷公園等 おれんじ坂口クリスマス会 おれんじ中溝読み聞かせの会などに参加
		平成 28 年 2 月 6 日	おれんじ初倉地域交流会
4.	クッキング	長期休暇時	焼きそば、ホットケーキ、焼き芋等

別紙

成果
① 「おれんじ」到着後の流れや過ごし方については、ほとんどの方が身につけてきている。「課題が終わったら好きなことができる、おやつがある」という意識付けができてきた。 ② 帰宅時間の 30 分前に片づけ、トイレ → 絵本の読み聞かせ → 帰りの会 という流れも定着しつつあり、落ち着いた雰囲気で帰りの車に乗ることができてきている。 ③ 他の子どもとの関わりが苦手な方も、空間を工夫することで、お互いに折り合いをつけながら、それぞれ自分の好きなことを見つけ、落ち着いて過ごせる場面が増えてきた。 ④ トランプやジェンガ、エアホッケーなど、集団でのルールのあるゲームに参加し、理解して楽しめる方が増えてきた。 ⑤ 施設見学などの外出体験では最初にルールやマナーを説明し、回数を重ねることで落ち着いて、礼儀正しく行動できるようになってきている。 ⑥ 交流活動では施設の職員だけでなく、施設を利用している保護者や子どもたちとの会話や関わりを楽しむことができている。地域交流会では、地域の方にたくさん参加していただき、一緒にコンサートやゲームなど楽しむ事ができた。 ⑦ ドッグセラピーは、毎月継続してお願いすることで、犬との関わりが上手になってきた方、関心が出てきた方など成長がみられる。
今後の課題
① 今後も学校や相談事業所、ご家庭との連携を大切にし、研修への参加を重ねていくことで、それぞれの方の障がい特性や、個性、能力など理解し、落ち着いて安全に過ごせるような対応の方法を職員全体で理解していきたい。 ② 興味の移り変わりがあるので、常に本人のできること、興味があることを見逃さず、本人が楽しめる遊びを探し、提案していく努力が必要。 ③ 好ましくない行動をしてしまう時には、どのような行動をして欲しいのかを落ち着いて伝え、好ましい行動ができたときには褒めるなどの対応をスタッフに徹底する。必要に応じてご家庭、学校や相談事業所などへの聞き取りや支援会議の要請など行っていく。 ④ 長期休暇などの一日利用日は体験を広げていく機会となるため、活動場所の情報収集に努め、楽しく安全に過ごせる場所を増やしていく。 ⑤ ドッグセラピーに加え、体操や音楽などの「集団療育」も集団活動参加のチャレンジの機会として考えていきたい。
支出額
14,535,127 円

別紙２－３

仮認定特定非営利活動法人フリースペース・うぇるびー第 12 期

事業報告書 2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

事業名

放課後等デイサービス「おれんじ坂口」

目的

児童福祉法等関係法令の理念に則り事業を行う。

① 障がい児の生活能力の向上のために必要な訓練を行う。

② 社会との交流を図ることができるよう、身体及び精神の状況やその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行う。

③ 上記①②のために個別支援計画に基づき必要なサービスを適切に行う。

実施概要

① 年間稼働日数　　240 日

② 延べ利用人数　　2,432 人／1 日当の定員 10 人

③ 指導・支援の流れ

1.「おれんじ」に着いたら、まずうがい手洗いをする。

2. 課題ルームで個々の課題に取り組む。

3. それが済んだらフリールームで、好きなこと、得意なことをして過ごす。

4. 帰りの会の当番、食器洗い、帰りのあいさつ等それぞれの役割をやり遂げる。

上記の生活能力の向上のためには外から「おれんじ」に入るとき及び食事の前の手洗い、あいさつなど基本的な生活動作やコミュニケーションを繰り返し練習すること、構造化や情報を視覚化することで子どもの理解を助ける方法を工夫している。今期はフリールームをいくつかに仕切って、本を楽しむスペース、ブロックで遊ぶスペースなどの構造化も行った。

④ その他の活動

1. 秋祭り（収穫祭）　　2015 年 11 月 21 日　　おれんじ坂口室内、駐車場

2. 野菜の収穫体験（レタス、茶、トウモロコシ）
春から秋にかけて　　地元農家の茶園、畑

3. 地元和菓子屋さんによる、どら焼き作り実演（一部体験）
春休み、夏休み　　おれんじ坂口室内

別紙

成果
1. 「おれんじ」での過ごし方については、ほとんどの子どもが身につけてきた。 2. 「課題が終わったら好きなことができる」という意識付けができてきた。 3. 帰宅時間の 25 分前に片づけ　→　本の読み聞かせ　→　帰りの会　という流れも定着しつつあり、落ち着いた雰囲気で帰りの車に乗れることが増えてきた。 4. 他の子どもと関わるのが苦手な子どもも、同じ空間で過ごすことや、他の子どもの声が聞こえている中で過ごすことに慣れつつある。 5.「 秋祭り（収穫祭)」は、地元の青年バンド、図書館司書さん、職員家族等の協力により、子ども、保護者、職員および関係者の楽しい交流の場となった。 6. 野菜の「収穫体験」では、野菜のでき方をなまで見ることができたと同時に、調理しておいしく食べることができた。この活動は土や水を触ることの苦手な子どもにとっては、貴重な体験となった。また、和菓子屋さんによる実演も含め、事業所周辺の方々との繋がりづくりのきっかけとなった。 7. 地元自治会長に依頼し、毎月の回覧物に「うぇるび一通信」を加えてもらい、地元での認知度をあげるきっかけができた。
今後の課題
①どんなことに興味があるのか、どんな遊びに「はまる」のか更に試行錯誤していきたい。 ②子ども同士のトラブルが少なく、かつそれぞれの子が快適に過ごせる方法を探し続けたい。 ③月 1 回の職員ミーティングの際、子どもへの声掛けの仕方など具体的な支援方法についての研修を取り入れていきたい。
支出額
18,350,999 円

別紙２－４

仮認定特定非営利活動法人フリースペース・うぇるびー第 12 期

事業報告書 2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

事業名

放課後等デイサービス「おれんじ中溝」、児童発達支援「いちご」

目的

児童福祉法等関係法令の理念に則り事業を行う。

① 主に重症心身障害児を対象とし、医療ケア、機能訓練等必要に応じた支援を行う。

② 社会との交流を図ることができるよう、身体及び精神の状況やその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行う。

③ 上記①②のために個別支援計画に基づき必要なサービスを適切に行う。

実施概要

①年間稼働日数　240 日

②延べ利用人数　877 人／1 日当の定員５人

③指導・支援の流れ

1. 学校へのお迎え。
2. おれんじ着後、手洗い、排泄介助、医療ケア等、個々に沿ったケアを行う。
3. 水分補給、おやつ介助。
4. 課題やフリールームでの活動、機能訓練（水曜日）を行う。
5. 帰りの会を行い、自宅まで送迎する。

※随時医療ケアを行う。

④ その他の活動

1. 防災訓練：4 月.9 月
2. 誕生日会：10 月.3 月.5 月.6 月.7 月.8 月.9 月
3. クリスマス会：12 月 24 日
4. セラピー犬訪問：毎月１回
5. 長期休暇の活動：おやつ作り.製作.買い物体験
   絵本よみきかせ（さくらんぼさん）.プール等

⑤ 児童発達支援「つくしの家」見学　　3 月

別紙

成果
1. 保護者・学校・他事業所との連携を密にし、情報共有することで支援の一元化を図ることができ、安心して利用してもらえることにつながっている。 2. 現在契約者数、放課後等デイサービス 17 名、児童発達支援 1 名。 3. 6 月より児童発達支援いちご利用開始。 4. 島田市の重症心身障害児の親の会、『リアンの会』の集まりに、場所とスタッフの提供をした（半年に１回)。スタッフが子どもたちをみている間、お母様たちが情報交換をされたり、リラクゼーションを楽しまれた。おれんじ中溝の場所や様子を知ってもらうことができ、保護者様とのコミュニケーションがよりとりやすくなった。
今後の課題
1. バギーや車いすの利用者様が多く、藤枝校と吉田校 2 か所へのお迎えもある等、送迎車両の不足。 2. 長期休暇の活動・感覚遊び等、スタッフの技術向上。 3. 感染症等に配慮していく。
支出額
18,176,919 円

別紙３

仮認定特定非営利活動法人フリースペース・うぇるびー第 12 期

事業報告書 2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

事業名

多機能型　就労継続支援Ｂ型事業「りんご」、生活介護事業「かりん」

目的

＜就労継続支援Ｂ型事業「りんご」＞

利用者が自立した日常生活および社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行います。

＜生活介護事業「かりん」＞

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、日常生活上必要な介護、創作余暇活動又は生産活動の機会の提供、その他の便宜を適切かつ効果的に行います。

実施概要

＜活動実績＞

＜りんご＞		＜かりん＞	
年間稼働日数	241 日	年間稼働日数	241 日
延べ利用者数	883 人	延べ利用者数	1,207 人
実利用者数	6 名	実利用者数	7 名

＜生産活動＞

自主製品製造：　紅　茶（パック・リーフタイプ）
焼菓子（マフィン、クッキー、パウンドケーキ、フィナンシェなど）
その他（ジャム、ゼリー、無農薬野菜など）
アクリルたわし、雑巾セットなど

販　売　先　：　毎週水曜日　にじいろ市場（島田市役所）、カネハチ、
ジャパンバザール、芭蕉庵、てのひら、いたわりの湯、
ひこばえ、静鉄ストア、矢崎牧之原、矢崎島田

イベントなど：　しましんふれあい市、初倉まつり、カバス、矢崎まつり、
吉田もえぎ祭り、ふじようまつり、ほん和花市（冬、夏）、
川根チャリム、社会福祉大会、マナビィまつり、ワコール、
母親大会、ふれあい広場、アピタ販売会、島田フリーマーケット、
博物館ナイトミュージアム

役 務 提 供：　チラシ封入、古紙回収、アラミド分別作業、園田農園、ネット巻作業

＜その他活動＞

防 災 訓 練　：　3 月、8 月
昼 食 作 り　：　島田汁と炊き込みご飯、カレーとデザート、流しそうめん
お楽しみ会　：　クリスマス会、初詣、節分豆まき、お茶摘み体験、七夕作り、
誕生日会、蓮華寺池公園散策、初倉まつり参加、外食体験

別紙

＜実習受け入れ＞

藤枝特別支援学校：　中学部　2年生　2名、高等部2年生　3名、3年生　7名

吉田特別支援学校：　高等部　1年生　2名、2年生　1名

一　　般　：　3名

成果

1. B型「りんご」では、利用者様がクッキーのアイシング等の飾りつけや袋詰め、島田市役所 や地域の事業所での販売のお仕事など、できることが増えてきた。
   スーパーカネハチのご好意により店頭で毎週火曜日に古紙やアルミ缶などの資源回収をさせていただくことになり、地域交流の場となり古紙等の売上も増えつつある。
   また、工賃規程を見直し、一人ひとりの利用者様の生活面と作業面での評価を実施することにより、適正に工賃に反映させることができてきた。
2. 農作業に専門の職員を配置し、イノシシ防護柵を設置したことにより被害が少なくなり、例年以上に季節の野菜がたくさん収穫できた。たくあんやピクルスなどに加工し、販売をした。
3. 生活介護「かりん」では、利用者様の体力増強のため、ウォーキングを週４日実施。
   また、ハンドベルや読み聞かせ、体操、字の勉強、買い物体験など余暇支援を充実することができた。
4. 月１回のミ―ティングでは、統一した支援ができるように利用者さんの情報を共有している。また、手話通訳者が同席することにより、職員の発言力をアップする訓練の場となっている。

今後の課題

利用者獲得のための啓発活動はもとより、自主製品の販路拡大と営業活動が必要である。しかし、イベントの開催時期が集中してしまい、職員に負担がかかっている現状もある。

それと同時に、利用者様の身辺自立や生活面も視野に入れて支援する必要性を感じている。一人ひとりの特性に合わせた支援をするためには、職員の支援力のアップが必須であるので、座学ではなく実践的な研修を取り入れていき、職員配置についても十分検討していきたい。

また、各事業所で利用者様のグループを細分化して、より良い支援につなげていきたい。

支出額

りんご	11,903,304 円
かりん	10,302,276 円
就労事業活動	5,286,021 円

別紙４

仮認定特定非営利活動法人フリースペース・うぇるびー第 12 期

事業報告書 2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

事業名

地域生活支援事業「移動支援事業」　　福祉有償運送事業

目的

〈移動支援事業〉

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じ、外出時における移動の援護を行います。単独での外出が困難な障がい者等の社会生活上必要な外出、余暇活動などの社会参加のための外出を支援します。

〈福祉有償運送〉

道路運送法第 79 条の 3 の規定に基づき、タクシー等の公共交通機関によっては、要介護者、身体障がい者等に対する十分な輸送サービスが確保できないと認められる場合に実費の範囲内で運行します。国土交通省から許可された事業ですので、利用者の利便性を第一に安全な運行を行います。

実施概要

〈移動支援事業〉

年間稼働日数　　281 日
延べ利用者数　　1,116 人

〈有償運送〉

年間稼働日数　　93 日
延べ利用者数　　106 人

成果

移動支援事業は島田市をはじめとする近隣市町の地域生活支援事業であり、うぇるびーが発足した当初から市町の委託を受けて続けている事業です。はじめは、支援学校や支援学級への登下校の支援をしていましたが、当時は大人の利用者様は多くありませんでした。ところが最近は、大人の利用者様が増えてきました。その理由は今まで家族中心に生活してきた方たちが、社会資源を利用して地域と関係をもつことの大切さを認められてこられたと推測できます。

福祉有償運送は移動支援を補完するもので、有償でもあり、利用者は限定されています。

今後の課題

利用者様に様々な社会資源の情報を提供し、幅広い利用方法を提案するためには、事業所としての情報収集や計画策定の力をつけていくよう努力してまいります。

支出額

移動支援事業　　8,545,812 円
福祉郵送運送事業　　437,676 円

別紙

別紙５

仮認定特定非営利活動法人フリースペース・うぇるびー第１２期
活動報告書 2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日

事業名

ノーマライゼーション実現事業・社会参加支援事業

目的

定款 第３条

この法人は、静岡県に居住する障がいを持つ人とその家族を中心にすべての人々に対して、地域の経済活動に参加しながら生活することができるよう支援する事業をおこなう。また、IT を駆使した意思伝達技術の習得、自然とのふれあい、文化的な活動、国際交流等を行うことにより、人の尊厳を認め合うノーマライゼーションの社会の構築をめざす事業を行う。これらの事業を通して、誰もが安心して地域で暮らしていけるような福祉社会に寄与することを目的とする。

定款第３条に定めた目的に従って、ノーマライゼーション実現事業は多くの方に障がいについて理解を深めてもらうための講演会を実施することとする。社会参加支援事業は法の範囲ではできない体験活動を企画し、実施における支援をすることとする。

実施概要

ノーマライゼーション実現事業　講演会

開催日時：2015 年 12 月 18 日 18 時～21 時　　会場：おおるり大ホール

講　　師：国立研究開発法人　日本医療研究開発機構　戦略推進部
脳と心の研究課のご紹介の脳科学の研究者
東京大学医学部付属病院精神神経科　山末英典　准教授
子どものこころの発達研究センター　涌澤圭介　特任准教授

参 加 者：事前予約 570 名（うぇるびー職員を含む）。障がい児・者の家族、幼稚園、保育園、小中学校の教諭、民生委員、市内障がい児・者の支援団体･事業所、障がい者を雇用している企業等に呼びかけ、当日は６４４席がほぼ満席になった。

社会参加支援事業

クリスマス会　開催日時：2015 年 12 月 5 日
会　　場：楽習センタークラシカ
参 加 者：障がい者、家族、一般　職員等で総勢 100 人。
出 し 物：人形劇団「茶問屋ショーゴ」、障がい者の有志がピアノや歌を披露。参加者を巻き込んだ劇「猿蟹合戦」「大きなかぶ」を楽しんだ。

防災講演会・災害時の福祉避難所としての宿泊体験

会　　場：初倉事業所

講　　演：島田市危機管理課課長天野様　「熊本地震での避難所ボランティア体験報告」
　　島田市福祉課　堤様　「東北大震災の体験談」

宿泊体験：災害時、初倉事業所が福祉避難所として機能するための検証を兼ねて宿泊体験を行った。

成果

ノーマライゼーション実現事業　講演会

1. 会場でのアンケートは 407 人分回収できた。その 6 割の方からコメントを寄せていただけた。アンケートを集計した結果、満足度は 85%であり、「とてもよかった」「よかった」との評価をいただいた。
2. コメントを読み込んでいくと、前回に引き続き開催した、大きな講演会を再度期待されている一方、個別のケースに対応できる講演の要望も多く、自閉症や発達障がいへの関心の高さがうかがわれた。
3. また、当日のカンパお願いしたところ、会場の皆さまから 23,405 円寄付していただきました。今回の講演会の資金に組み込ませていただきました。

今回の講演が自閉症の理解につながることを願い、ご参加くださった皆様に深く感謝いたします。

社会参加支援事業

クリスマス会は恒例の行事になっている。第 12 期は利用者様のピアノと琴の演奏、茶問屋ショーゴの人形劇、バンド演奏があり、みんなでクリスマスソングを歌いケーキを食べた。参加者は利用者様、ご家族、そのお友達、スタッフを加えると 100 人を超えた。障がいのあるなしを超えた集いとなった。

防災講演会・災害時の福祉避難所としての宿泊体験

講演会には他事業所のスタッフの参加もあった。熊本での避難所ボランティア活動報告では、授乳室、女性の着替え室、子供の遊び場等を設置することの必要性が説明された。また、情報をいかに収集し、みんなに早く伝えることが大切かという点を訴えられた。

仙台在住時（学生時代）に東北大震災を体験したお話では、アパートは被害がなかったが、断続的に大きな揺れが来たことや真っ暗な街、早期にコンビニで食料を確保したこと等の話から、不安な夜の状況が伝わってきた。

今後の課題

2015 年 5 月に仮認定 NPO 法人となり、皆様からご寄付をいただくことで、ノーマライゼーション実現事業・社会参加支援事業を実施してまいりました。2017 年 1 月には本認定を申請する予定です。また、4 月からは金谷で地域交流・多様な人の居場所を運営する計画なので、より多くのご寄付をいただく努力が必須です。それには、社会への波及効果のある企画を立てること、多くの参加者を募ること、有効にお金を使うこと、情報公開を速やかに行うことなどが課せられます。ご寄付くださる方、障がいのある方の期待に沿うよう実行してまいります。

支出額

443,622 円